

いしづち

2022.11

NOVEMBER

No.149



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



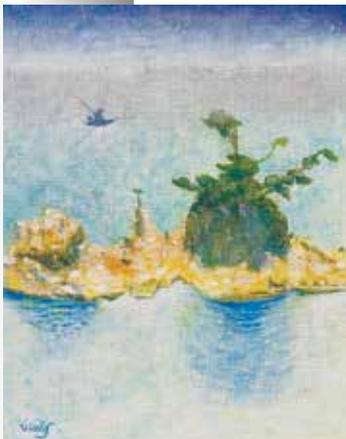
メタバース建築

道後温泉の外湯について(前編)

世界建築紀行 ペトロナスツインタワーと世界遺産の街マラッカ

1	メタバース建築	道上壯/VuA……①
2	道後温泉の外湯について(前編)	一級建築士 野本 健……③ 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……③
3	世界建築紀行 ペトロナスツインタワーと世界遺産の街マラッカ	西予支部 松山 清……⑨
4	委員会活動報告 愛媛の登録有形文化財 第1回 章光堂(愛媛大学教育学部附属中学校講堂) 松山市	文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和……⑮ 二級建築士設計製図試験対策見学会報告 青年委員会 委員長 和田 崇……⑰ 女性委員会主催 異業種勉強会 防災セミナーに参加して 女性委員会 委員 入船 安紀……⑱
5	支部報告 目指せ建築士!安全な橋をつくろう。宇和島支部 青年部 青年部長 櫻井 一博……⑲	
6	けんちくの輪 田中羊子に会って	賛助会員(株)栗田工務店 谷本 憲介……⑳ 建築と災害(記憶の大切さ) 宇和島支部 兵頭 友義……㉑
7	お知らせ 第3回理事会(支部長会合同会議)概要報告	事務局……㉒

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



アクリル画

題：「ターナー島」サイズ/3号
正式には、四十島(しじゅうじま)であるが、夏目漱石の小説『坊っちゃん』に出てくる場合は、「ターナー島」という。正岡子規も俳句に詠んでいる。四十島は興居島の黒崎から四十島瀬戸と呼ばれる海峡を挟んだ位置にある。

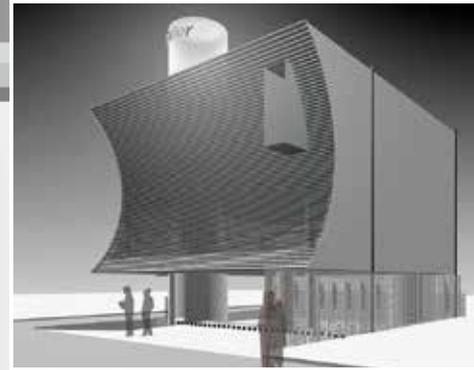
表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「櫛リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

メタバース建築

道上壯/VUA

今年はメタバース元年と言われている。メタバースとは、パソコンやネット上の仮想空間のことだ。このメタバース内ではアバター（自分の分身をキャラクター化したもの）を使って、他のアバターとコミュニケーションをとったり、メタバースのお店でショッピングをすることもできる。今、僕らがSNSで会話していることや、ネットで買物をしていることが、もっと実体化された形で体験・実現されるのがメタバースなのだ。



Complex_GM ▲
ヘアサロン+雑貨店
(群馬前橋)

このメタバースの世界でも現実の世界と同様に、道路や公園、建築、街、その他の都市建築的空間が必要になってくる。既に「バーチャル渋谷」などが作られており、様々な経済活動、企業活動、生活活動の場として利用されている。誰かが仮想空間内に様々なものを作っている。手に取れる実物のモノではなく、単なるデジタルなデータとしての存在なのだ。

海外では、既にメタバースの敷地や建築が売買されている。仮想通貨のように単に投資の対象として購入されているものもあれば、企業活動の場や、個人の生活活動の場として購入されているものもある。まるで現実世界の不動産のように、早く買わないと無くなるし、後から買おうとすると高くなる。メタバースだけを扱う不動産業者や建築業者まで登場している有様だ。

悲しいことに、メタバース建築は使い捨ての消耗品でもある。例えばあなたがメタバースの敷地

を手に入れたとしよう。誰かを招待するには、当然何かしら建築的なものが必要になる。自分でコツコツ作るのも楽しいが、ラインのスタンプのように、手軽で安価に購入できるものがあれば、きっとそれらを利用するだろう。住宅1棟で1000円なら、迷わず購入するはずだ。1年経って飽きたら、また別のものを購入すれば良い。月々300円で毎月住宅が新しく変わるサブスクリプション・サービスがあれば、そちらを利用するかもしれない。そんな風に、どんどん消費されて使い捨ての運命にあることは間違いないのだ。

次々と消費されてゆくメタバース建築は、無限の広がりを持つ底なしのビジネス・マーケットでもある。あなたが作った住宅が、1棟1000円で全世界で1000棟売れたとしよう。すると100万円の売上になる。1万棟なら1千万円。10万棟なら…。世界で人気のiPhoneの出荷台数は4750万台。取らぬ狸の皮算用だが、あなたの建築が世界で人気が出れば、10万棟は決して大きい数字ではないのだ。

誰がこのメタバース建築をつくるのか？現実の建築のような専門家による独占業務ではない。資格は不要だし、建築基準法への適合義務もなく、構造計算の煩わしさや、重力の制約や、素材の制限もない。3DCG系のソフトウェアが操作できれば、誰でも作ることができる裾野の広い生業なのだ。ビジネスのライバルは同業他社ではなく、世



Building_CI ▶
レストランカフェ
(千葉市原)

METaverse ARCHITECTURE

界中のあちこちにいる誰でもになる。まるで、YouTubeやインスタグラムのフォロワー数を競うような戦いになるということだ。

比類なき完璧な世界。メタバースの建築は、パーフェクトな世界を生み出すことができる。僕が独立して自分の事務所をやり始めた頃、仕事もなくコンペに明け暮れていた日々があった。この時、CADと3DCGを覚えようと思い、プレゼン用の3DCGを一生懸命作っていた。この建築は、寸分の狂いもなく自分が思い描いた理想そのままの姿で建ち上がっていった。施工誤差はゼロで、素材感や光の当たり方は自由に設定ができる。コンペ案なので誰からも指図を受けずに、自分のエゴの塊として一つの建築を完成させることができたのだ。そこには小さな自己満足と共に、新しい建築へ向けての可能性も感じる事ができた。

とにかくメタバースに関して思い浮かぶことを、色々書き連ねてみた。メタバースのこれからを、予想しようとは思わない。なぜなら、きっと僕の予想なんかを遥かに凌駕するような未来になるだろうからだ。ただ、現実の世界で建築に携わる僕たちは、このビッグバンに対してどう向き合っていくのかを考えておく必要がある。海の向こうの遠い出来事として傍観してゆくの、それとも、しっかりと踏み込んでどっぷりと浸かってゆくの。僕たちの人生やビジネスライフに、大きな影響を与えることは間違いないはずだからだ。



House_HF ▶
個人住宅
(広島福山)



Building_NS ▲
飲食店テナントビル(愛媛松山)

インターネットやSNSの発達で、現実世界での人と人との関わり方が変わっていった。メタバースの仮想空間が広がって、そこに建築がつくられてゆくことで現実世界の建築の意味も変わってゆく。以前よりも価値のないものになってゆくのか、それとも、逆に価値のあるものになってゆくのか。僕たちの努力で好転するものもあれば、努力の甲斐なく暗転するものもあるだろう。

来年還暦を迎える僕は、そう長くメタバースと関わることはないと思っている。でも、このコラムを読んでいる若い皆さんたちは、人生の大半をメタバースと関わって過ごすことになるだろう。つくるのか、買うのか、重宝するのか、疎ましく思うのか。これから世界中の人々を巻き込んで、メタバースが進化発展してゆく。インターネットやWindowsやスマートフォンで冷や飯を食い続けている日本人は、もっと真剣に我が事として考える必要がある。

GoogleやMetaは、現実の世界で手に取れるような実態のあるものは殆ど作っていない。しかしながら、日本の超優良企業のトヨタ自動車の倍以上の利益を稼ぎ出している。こんな現実を目の当たりにしたあなたは、きっと今から真剣にメタバース建築について考えるに違いない。

執筆： 一級建築士 野本 健

監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹



▲道後温泉本館（提供：道後温泉事務所）

<ことわり>

以下記載内容は、現在の道後温泉本館保存修理工事の状況や収集できた文献から総合的に判断した内容を記載している。そのため、調査状況により新たな知見が得られた場合、記載内容に訂正の必要が生じる可能性はある。

■ はじまり

「道後温泉」と聞くと、一般的に「道後温泉本館」を思い描くと思われる。現在、「道後温泉」には「道後温泉本館」、「椿の湯」、「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」と呼ばれる道後温泉の温泉を使用した3つの公衆浴場が存在する。かつては3施設以外にも公

衆浴場が存在し、「外湯」と呼ばれていた。現在では、どの時代にどの「外湯」が存在したかをまとめている資料が無かったため、今一度この場で時代背景や経緯等を整理し、まとめさせていただいた次第である。



◀ 道後温泉本館



▲ 椿の湯



▲ 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉

写真提供：道後温泉事務所

用語解説

源泉 道後温泉は現在、18本の異なる温度の源泉をかけ合わせて42～43度になるように調整している。

外湯 道後温泉本館、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉、椿の湯のことを指す。昭和初期は旅館・ホテルに温泉を配湯できず、宿泊すれば外の湯に行くという流れから生まれた言葉。

内湯 旅館・ホテルの道後温泉を使ったお風呂のことを指す。上記、外湯と分けるために作られた言葉。

道後温泉の外湯

外湯のはじまり

■明治22年（1889）に伊佐庭如矢が道後湯之町の初代町長となった。彼が初代町長に就任した際の道後温泉本館は北側に「神の湯本館」、東側に「新湯」、南側に「養生湯」、西側に「牛馬湯」という建物がある状況であった。以下時系列でまとめた。

伊佐庭如矢、初代町長就任時の道後温泉

- 天保5年（1834）「養生湯」（現在の「南棟」の前身）（南側）
- 明治5年（1872）「道後温泉本館」（現在の「神の湯本館」の前身）（北側）
- 明治11年（1878）「新湯」（現在の「又新殿・霊の湯棟」の前身）（東側）
- 明治20年（1887）「牛馬湯」（西側）

彼は多くの観光客を集客するために道後温泉本館の改築工事を行った。以下時系列でまとめた。

伊佐庭如矢、町長時代の道後温泉

- 明治25年（1892）「養生湯」の改築工事（現在の「南棟」の前身）（南側）
- 明治27年（1894）「神の湯本館」の改築工事（北側）
- 明治32年（1899）「又新殿・霊の湯棟」の改築工事（東側）

以上より、伊佐庭如矢が道後温泉本館の建物の全てを改築し、現在の姿に至った経緯を知ることができる。



▲伊佐庭如矢（初代湯之町町長）（提供：道後温泉事務所）

まず最初に伊佐庭如矢は古くなっていた「養生湯」の改築工事を始めた。「養生湯」は当時、無料で入浴することができる浴場であり、売上が無いため改築する費用が無かった。今後、100年を見据えた時に無料の浴場では同じ状況になることが予想されたため、入浴料を取ることを発表すると多くの町民から反対の声が上がった。その反対の声を押さえるため、彼は現在の「椿の湯」がある場所に「養生湯」の建物の材料を再利用した無料の公衆浴場「松湯」を建設した。

「松湯」は道後温泉本館で使用した余流を使用したものであった。また、「松湯」の余流を使用した「薬湯」の建設を行った。「薬湯」は梅毒等の患者の治療のための公衆浴場であった。

さらに「薬湯」の余流を使用した「牛馬湯」を設置した。これは道後温泉本館の西側にあった「牛馬湯」を移転させたものである。

ちなみに、この余流は「湯の川」とも呼ばれ町民はその川に並んで洗濯物を洗っていたそうである。

このように道後温泉本館の余流を使用した最初の施設が誕生し、「道後温泉本館」から離れた公衆浴場「外湯」がはじまるのであった。



▲牛馬湯 (提供：道後温泉事務所)



▲道後温泉絵図(寛永15年)
(提供：道後温泉事務所)

■牛馬湯 寛永15年頃(1638)～昭和41年(1966)

「牛馬湯」はその名の通り、牛や馬が入浴する浴場であった。寛永15年頃(1638)の道後温泉絵図より、その時代から道後温泉本館の西側に存在したことがわかる。道後温泉本館付近の農家が飼っていた農耕用の牛馬や荷車の馬を洗うために本館の側に作ったものだと考えられる。

この牛馬湯は衛生上、好ましくないという理由から一度、明治16年(1883)に廃止されたが、明治18年頃(1885)から再興の希望が起こり、明治20年(1887)に再開された。

しかし、伊佐庭如矢が町長に就任すると、人が入浴する場所の近くに「牛馬湯」があるのは好ましくないという理由で明治25年頃(1892)に現在の「椿の湯」付近に移転することとなった。

さらに現在の「椿の湯」の付近に家が建ち並び始めたことにより、大正9年(1920)、現在の「業務スーパー」付近に移転することとなった。戦後は農耕も牛馬から耕運機に変わり、牛馬の

入浴が減った。地方巡業のサーカスの象、ペットの犬などを入浴させたりと様々な動物が入浴した「牛馬湯」であったが、管理する後継者がいなくなったため、昭和41年(1966)で廃止となった。

■松湯 明治25年(1892)～昭和28年(1953)

「松湯」は無料の公衆浴場として、「養生湯」の材料を再利用して建設され、お遍路さんなどが主に利用していた。大正11年(1922)の図面に「西湯」と「砂湯」の間に「松湯」の存在が確認でき、昭和28年(1953)まで建物は存在したと考えられる。

■薬湯 明治25年頃(1892)～大正11年(1922)

「薬湯」は梅毒等の患者の治療のための浴場であった。「西湯」、「砂湯」を改築する際に撤去された。

道後温泉の外湯

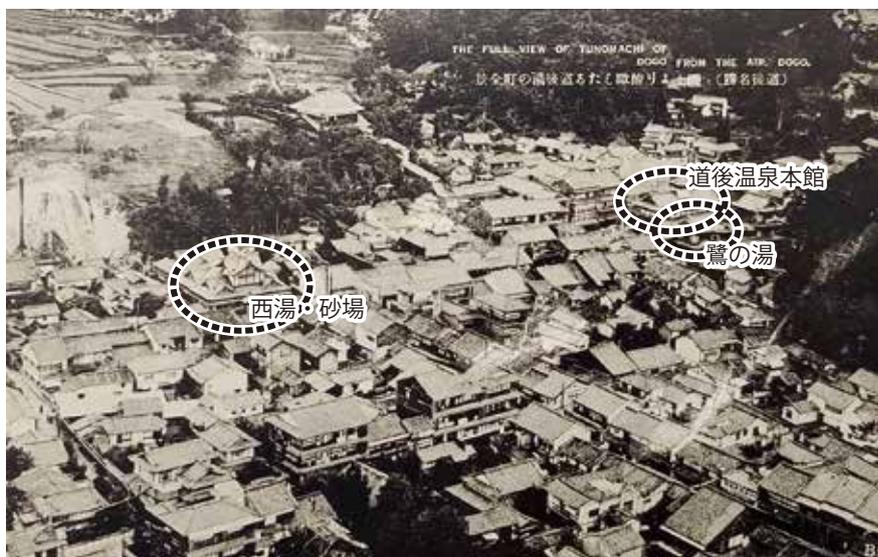
大正時代の外湯

■大正時代は道後温泉の増湯計画のはじまりと言える時代である。明治時代、初代町長の伊佐庭如矢は道後温泉の湯量が少なく、温泉を用いた事業を行うことができなかった。そのため、巨大な3層楼の「神の湯本館」、皇室専用の浴室を有する「又新殿・霊の湯棟」など建物で集客する事業を行うのであった。明治35年（1902）に伊佐庭如矢が町長を勇退すると、その後の道後湯之町は温泉の増湯計画に目を向けるようになった。

大正7年（1918）に「道後温泉増築計画」が発表された。大正時代は道後温泉に多くの観光客が訪れており、また大正13年（1924）に日本国有鉄道（現在のJR）が来ることが発表されたことで観光客が増大することが予想され、それに対応するための計画であった。

「道後温泉増築計画」

- ・第1期工事：西湯・砂湯の建設
 - ・第2期工事：養生湯の改築工事
 - ・第3期工事：高等湯の建設
 - ・第4期工事：道後公園内に新湯の建設
- 上記が道後温泉の大正時代の計画であった。



▲昭和初期の道後（提供：道後温泉事務所）

■新湯（第七室・八室）

大正3年（1914）～昭和2年（1927）

大正10年（1921）発行の道後温泉誌では下記のような名前で浴室を呼称していた。

- ・霊乃湯：甲室（男子浴室）、乙室（女子浴室）
- ・神乃湯：一室（男子浴室）、二室（男子浴室）、三室（女子浴室）
- ・養生湯：五室（男子浴室）、六室（女子浴室）
- ・神乃湯：七室（男子浴室）、八室（女子浴室）
- ・まつ湯：右室（男子浴室）、左室（女子浴室）



▲新湯（第七室・八室）（提供：道後温泉事務所）

大正2年(1913)に道後温泉の第1号源泉のポンプアップによる増湯に成功すると、大正3年(1914)現在の振鷺亭付近に「新湯(第七室・第八室)」を建設した。入浴客急増に対応するための公衆浴場であり、当初は「神乃湯(第七室・第八室)」と呼ばれ、主に町民に利用されていた。

■西湯、砂湯 大正11年(1922)～昭和28年(1953)

「西湯」、「砂湯」の建設は養生湯を改築する際の、入浴客の受け皿となる公衆浴場として建設された。「西湯」、「砂湯」は現在の椿の湯の場所にあり、「松湯」、「薬湯」を改築したものであった。

西湯は男女の浴室があり、2階は小さな休憩室、砂湯は男女の浴室と浅い砂敷きの浴槽を備えていた。砂湯の男女を間仕切る壁の浴槽の下には小さな穴があり、子どもがそこを潜って男湯と女湯を行き来していたそうだ。また、砂湯の浴槽は浅かったこともあり、子どもには人気であった。

■鷺の湯 昭和2年(1927)～昭和38年(1963)

昭和2年(1927)の「道後温泉増築計画」の第3期工事の1つとして建設された。現在の冠山駐車場のゲート付近にあり、当初は高等湯として建設される予定であったが、更なるポンプアップの反対、土地の売買など多くの問題が重なり、結果として町民が利用する公衆浴場として建設された。「鷺の湯」が建設されたことで「新湯(第七室、第八室)」は取り壊された。

《道後温泉の外湯について「後編」へ続く》



▲西湯
(提供：道後温泉事務所)



◀西湯(浴室)
(提供：二神 将)



▲砂湯(提供：道後温泉事務所)



◀鷺の湯
(提供：道後温泉事務所)



鷺の湯(浴室) ▶
(提供：道後温泉事務所)

ペトロナスツインタワーと 世界遺産の街マラッカ

西予支部 松山 清

1 マレーシアへの誘い



▲ペトロナスツインタワー(左:タワー1、右:タワー2)

クアラルンプールに1998年に竣工したペトロナスツインタワーは高さ452m・88階建てで、5年後に台北101が完成するまで世界一を誇りました。ツインタワーでは今でも世界一のビルが何故マレーシアにあるのか?とその頃不思議に思ったのですが、当時マレーシアは東南アジアの優等生として発展していて、ANA直行便が就航した機会に、クアラルンプールの街とペトロナスツインタワーを訪ねることにしました。

ペトロナスツインタワーのことを調べていると、必ず根拠不明の噂にたどり着きます。タワー1を日本のハザマが、タワー2を韓国のサムソン物産建設が施工したことに起因するものです。それは、
①タワー2(韓国側)は現在でも傾いている
②傾いているため、テナントがなかなか集まらない
③空室が多いので、夜のタワー2は全体的に暗い
というものです。

このツインタワーに関しては入札の経緯など複雑な背景があり、日韓の建築技術競争が世界一の座をかけて熾烈だった証です。



マレーシアへは2016年12月23日に向かったのですが、熱帯のため現地は日本の真夏のような気候でした。

2 ペトロナスツインタワーのインプレッション



◀タワー1先端部

▼基準階外壁





▲地下EVホール ▲スカイブリッジ(タワー2側) ▲タワー間の低層部のモール ▲モールのドーム屋根

このツインタワーはシーザ・ペリの設計で、建築地は強い海風が吹くことから、風による建物振動を抑制するため構造は高強度コンクリートを用いたRC造です。また、外観はイスラム様式モスクの尖塔を意識したデザインで、平面形状も正方形二つを45°ずらして重ね合わせ、その交点には半円形のバルコニーを作ったような複雑な形で、建物自体が宗教建築のようです。タワー間低層部には巨大なショッピングモールが配置され、伊勢丹や紀伊國屋書店の他、世界のブランドショップが並んでいました。地上170mの41階と42階には二つのタワーを繋ぐスカイブリッジが架けられています。

スカイブリッジはいずれのタワーとも剛接合となっておらず、ローラーで水平変位を吸収し、下部の斜めの支柱が変位を制御する設計となっていたのも納得でした。スカイブリッジは、本当に橋のような力学的構造です。

最上階展望台はクアラルンプールの超人気スポットで、一日の人数制限もありチケットの入手が困難なのですが、なんとかしてクアラルンプールの街並みを一望したいものです。展望台へ上るのは予約制で、エレベーター乗り場まで行ってはみたものの事前購入したチケットがないと入場できま

せん。そこで翌日朝のエレベーターのチケットを購入して、その日はショッピングモールで買い物を楽しみました。ちょうどクリスマスだったので、大勢の観光客や家族連れなどで賑わっていました。モールには伊勢丹が広大なエリアを占有しており、日本企業の健闘が心強く、嬉しくなりました。

翌朝早くホテルを出発しタクシーでKLCC (クアラルンプール・シティ・センター) へ行きました。まだ観光客はほとんど来ておらず、何処がタワーの入口か迷いましたが、タクシードライバーのアドバイスで地下EVエントランスへと入ることができました。一番乗りだったので、EVホールはまだ清掃中。しばらく待っている内に、次々と観光客がやってきます。あっという間にEVゲート前に列が伸びていくので、遅れてはならじと列の10番目くらいに並びました。結局は、予約券を持っている人は全員入れたので、慌てる必要はなかったのですが。

EVはまず41階スカイブリッジに停止。ここを見学する時間が取られます。タワー2のEVで昇っているため、向こうに見えるのはタワー1の出入り口です。建物の外壁も、遠くで見ていたよりも大きく感じました。まだ、スカイブリッジまでしか昇ってきてないというのに、周辺の超高層ビル



▲ブリッジからの眺望 ▲最上階の眺望 ▲最上階展望室 ▲周辺の高層ビル群



▲ 槍のようなタワー1

の最上階と同じくらいの高さになりました。眼下に見えるのは、レイク・シンフォニーとスリアショッピングモールのドーム天井です。昨日はショッピングをしながら下から見上げていました。

このスカイブリッジは、実用性はないけれども観光名所としての役割は果たしています。実は韓国のサムソン物産建設が施工したタワー2が傾いてきたので、このブリッジで連結して倒れるのを防いでいる、という話が誠にやかに広がっていますが、ブリッジの構造を理解すればそれは偽りだと確信しました。ただEVメーカーが地上72階でタワー2は25mm傾いていると公表し、それは信頼性が高いため施工誤差が生じたのは事実のようです。サムソン物産建設の副社長も、日本の建設技術には到底及ばなかったと、白旗を上げた

そうです。

タワー2の最上階展望台は、ペトロナスツインタワーの模型が置いてある程度で、ガラン洞の空間といった感じで、観光客がうろうろするのみ。その分、展望を楽しみなさいというわけです。ここからは、タワー1が真横に見え、それはまるでビルではなく槍の穂先か塔のようです。タワー1に隠れてその肩越しに小さくクアラルンプールタワーが見えており、また、KLCC南側のブキッ・ビンタン方面がビルも多くこの街の中心地だなあと思いました。イスラム教の関係か、展望フロアの係員は黒い清楚な服で、女性はヒジャブを頭に巻いていました。

3 マラッカ海峡を望む世界遺産の町並み



▲ オランダ広場のムラカキリスト教会

マラッカは、「マラッカ海峡の歴史都市群」として2008年に世界遺産に登録されました。クアラルンプールからマレー半島のハイウェイを南下すると約40分でクアラルンプール国際空港、さらに1時間程行ったところにマラッカがありました。さらに、2時間走るとシンガポールに行くことができます。

ハイウェイのパーキングエリアには公衆トイレと並んで礼拝堂が設置されていて、イスラム教が国民の暮らしに浸透しているなあと感じました。



▲ マラッカ川に面した、遊歩道のある町並み



▲ マレー様式の住宅

また、マラッカが近づくにつれて、ハイウェイ沿いにはパーム椰子やゴムのプランテーション農場が連なり、日本の自動車メーカーも進出しているのが目立ちます。

マラッカ王国は15世紀頃、「海のシルクロード」と共に栄えていましたが、その後ポルトガルやオランダ・イギリスの支配が続いたため、市内ではその歴史的な痕跡がセントポールの丘とオランダ広場を中心に見られます。マラッカ川沿いは遊歩道なども整備されて、マレー様式の住宅が建ち並んで景観を形づくっていました。

一方、香辛料の中継貿易港として発展する以前から、マラッカは中国との交易があったため、オランダ広場から続くチャイナタウンには華僑の暮らした商家の町並みがあり、ババ・ニョニャ・ヘリテージというプライベートミュージアムで約100年前の暮らしぶりを見ることができました。

マラッカのイメージは、マラッカ海峡を行き交

うタンカーや貨物船を小高いところから眺める、と想像していたのですが、チャイナタウンは結構ガヤガヤして車も多く、しかも路上駐車も普通のようにで秩序がない印象です。

マラッカの中心オランダ広場を取り囲むように煉瓦色の壁のスタダイスとムラカキリスト教会があります。マラッカと言えば、このオランダ広場の景観がお決まりのよう。スタダイスは、1650年にオランダ総督らが住むために建てられた建物で、今ではマラッカの町のシンボルとして歴史博物館に利用されています。ムラカキリスト教会もオランダ広場そのものという存在でしょう。

オランダ広場からスタダイスの中にある階段を上って丘の上のセント・ポール教会へと向かいました。丘からの展望は良くて、マラッカ市内を見渡すことができ、ここへきてやっとマラッカ海峡を行き交う大型船を見ることができました。

セント・ポール教会の前には白い灯台がありま



▲ チャイナタウンの通り



▲ ババ・ニョニャ・ヘリテージ



▲ 教会の塔を改築した灯台



▲ セントポール教会



▲サンチャゴ砦



▲砦裏口の鉄骨補強



▲砦大砲のレプリカ

すが、これはもともと教会の塔があったのをイギリスが破壊し、その後灯台を建てたという歴史があります。教会内部は、屋根がなくて外壁のみになっていました。聖人フランシスコ・ザビエルは中国への布教の際に熱病で死亡し、インドのゴアへ運ばれる際、9ヶ月間この教会に安置されました。そのため、カトリック信者にとってはここは聖地で大切な場所なのです。世界の歴史を感じる教会でした。

セントポールをオランダ広場と反対側へ降りて行ったところに、サンチャゴ砦があります。この砦は1511年にオランダとの戦いに備えるため、ポルトガル軍によって作られたもので大砲も備えています。昔はこの辺りまで海が迫っていたのです。セント・ポール教会同様、赤い鉄骨で老朽化した壁を補強してありました。そのような砦の遺跡から、ここ500年の間にオランダやポルトガル、イギリスなどに占領されてきたマラッカの歴史を感じたのでした。

4 クアラルンプール市内観光



▲王宮広場



▲王宮



▲王宮から見た市内中心部



▲国立モスク

マレーシアには13の州があり、国王はその中から順番に5年の任期で選出される制度で、王宮は住居となっています。国室行事の会場でもあるのですが、観光客は王宮広場までしか入れません。門からは遠くに黄金に輝くドーム屋根が見え、観光客は門番の歩兵と記念写真を撮っていました。

マレーシアの国教はイスラム教なので、光塔がそびえ立つ国立モスク“マスジット・ヌガラ”へも行きました。外観は傘のような近代的なデザインですが、女性が内部に入るにはヒジャブを着なければなりません。大空間の礼拝堂にはイスラム教徒以外は立入禁止でした。



▲入口でヒジャブに着替え



▲神聖な礼拝堂



▲ヒンドゥー教寺院

その他、チャイナタウンでは中国寺院・ヒンドゥー寺院・キリスト教会なども集まり、中国系移民だけでなく多民族が共生した名残を感じられました。

今回の旅でのカルチャーショックはトイレです。もちろん水洗トイレですが、トイレトペーパーは備え付けられておらず、ホースのついた水のシャワーが1つ、便器の横にありました。そのシャワーを右手で持って、左手でお尻を洗い、そのままパンツを履くのです。そのためトイレブースの中は水浸し。「そしたらパンツが濡れるじゃないか?」というと、「すぐに乾く」という答えが返ってきました。

クアラルンプール市内の住宅エリアは、タウンハウスが建ち並んで緑がとても多いのが印象的です。一方、中心部は超高層ビルが次々に建設されていましたが、この町の独立の歴史を象徴するムルデカ広場の周辺には、丸いクーポラが特徴の旧連邦事務局ビルや国立歴史博物館などのビクトリア様式・ムーア様式・ムガール様式が融合した植民地時代を象徴するような建物も見られました。市内観光終了後にはクアラルンプールタワーやKL



▲ムルデカ広場



▲旧連邦事務局ビル

CC水族館などを見学しました。市内モノレールの橋脚には“H I T A C H I”のロゴが至る所に見られ、日本の技術貢献を感じます。



▲HITACHI ロゴの橋脚

5 マレーシアの旅を終えて

ペトロナスツインタワーはタワー1がテナントビル、タワー2がペトロナス社の本社ビルでした。ペトロナス社は東南アジア第二位の石油・天然ガス生産国であるマレーシアの国営石油企業で、このビルは国家プロジェクトとして完成されたのです。日本では1996年完成のりんくうゲートタワーがツインビルとして計画されましたが、バブル崩壊により高層ビル30棟が建つはずだったりんくうタウンプロジェクトとともに頓挫。256mの高さの北棟のみ1棟が建設され、高速道路を挟んで並んで建つはずの南棟は今でも建設されていません。

世界の超高層ビルの高さは500m級で争っているのに、日本は300mの水準です。超高層ビルは風荷重がクリティカルなため、日本が地震国だから建設できないという理由ではなく、日本の国力・経済力が世界から取り残されていっているという危機感を感じてしまいます。建築技術力以前に、世界の中の日本がこれからどう進んでいくべきなのか、日本のポリシーが問われている時代だとクアラルンプールを見て再認識させられました。

愛媛の登録有形文化財 第1回 章光堂(愛媛大学教育学部 附属中学校講堂) 松山市

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和

章光堂は松山高等学校(現愛媛大学)の講堂として、大正11年(1922年)に現在の地に建てられました。旧制高校時代の建物としては唯一のもので、卒業生より保存の要望が強く、国の費用で昭和46年(1971年)に修理され、昭和53年(1978年)に愛媛大学により保存建造物に指定されています。平成10年、愛媛県としては2番目に国の「登録有形文化財」となりました。平成24年度に改修工事が行われ、耐震工事、明かり窓の復元などの補修工事がなされています。今年は築100年となり、今日まで愛媛の学問の礎として威風堂々としたその姿を見ることができます。2月に行われた100周年記念式典は、愛媛大学教育学部附属中学校のHPで見ることができます。



▲章光堂(正面より)

擬洋風建築

完全な洋風建築ではなく、日本の建築要素がある洋風を擬した建築という事で、「擬洋風建築」という分類があります。章光堂は屋根には瓦が用いられるなどしており、「擬洋風建築」にあてはまります。

擬洋風建築は幕末から明治時代の初期に多く作られました。様式は主に3つの時期に分かれており、初期が木骨石造系、中期が漆喰系、そして最後に流行したのが下見板系といわれています。

建物の特徴

奥に長い長方形の建物になっていて、正面には前に飛び出た形の玄関を持っています。この玄関は「車寄せ」と呼ばれるもので、当時、車のない時代でしたのでとてもハイカラな、新しい意匠であったと思われます。この

車寄せは、8本のエンタシスという中央部に膨らみのある柱で支えられていて、柱の頭の方はトスカナ式オーダーとなっています。左右に塔が設けられていて、非常に堂々とした構えになっています。玄関の半円形のランマが軟らかい意匠で、利用する人を気軽に迎えてくれます。

外壁はドイツ下見板張り、東西に長い建物の中央部には南北にドアが設けられています。その並びに1・2階に上げ下げ窓が整然と並べられていて、見ていてスッキリとした作りとなっています。



▲車寄せの意匠

この時代の洋風建築は屋根の意匠に苦労したようで、瓦で葺いてもそれが見えないような努力をしています。章光堂でも、正面に立つと瓦屋根が見えないよう工夫されており、こういった部分でも愛媛の建築が外国の文化や技術を吸収していく過程を見る事が出来ます。



▲違和感のない佇まい(正面は瓦屋根が見えないよう工夫されている)

玄関に入ると広いスペースがあり、ここから2階やホール内部に入れるようになっています。内部は木造で、それに漆喰仕上げで洋風を感じさせる造りとなっています。

講堂内部は、ホールとの壁と北・南面の外壁面より1間半(約3m)の位置に20本もの円柱が立ち並んでおり、その外側の二階にはギャラリーが設けられています。そ

の内側は2階まで吹き抜けで、天井の高さ約9mの大空間となっています。



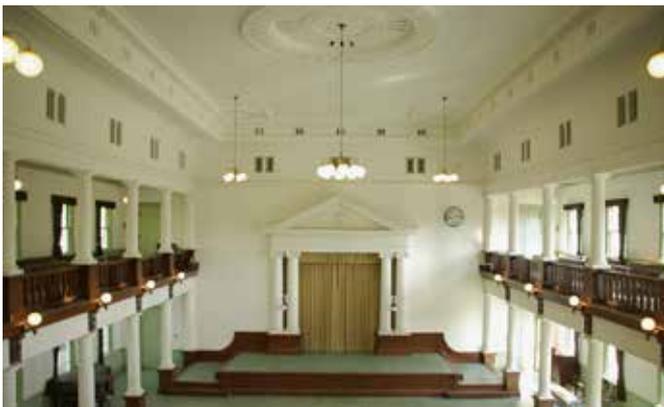
▲内部正面には「章光堂」の額
この額が飾られる前は単に「講堂」と呼ばれていた。



▲章光堂屋根裏のトラス

その上には三角形のペジメントが乗っています。

周囲には洋風建築の特徴として良く見られる上げ下げ窓が整然と並んでいて、明るく、そして厳かな雰囲気を保っています。



▲内部の大空間

柱がなく、これほどの大きなスパンを持つ建築物を作るためには、日本建築では大きな梁や材料が必要でしたが、この時代に新たに導入されたトラス工法によって単純に施工できるようになり、積極的に使われるようになりました。内子座や道後温泉本館でも使われています。愛媛県ではこの工法の導入時、見たり聞いたりだったのでしょうか。未熟なものもありましたが、大正期に建てられたこの章光堂の小屋組は継ぎ手の仕口や使用されている金物もしっかりとしていて、知識や技術が浸透し、成熟期を迎えていた事が良くわかります。残念なことに、今のところ設計者や技術者が誰なのかはわかっていません。

中央正面のステージはエンタシスの柱の上に柱飾りが乗っています。これは先ほど見ていただいた車寄せ、玄関のものとは違ってイオニア式のものとなっています。



▲講堂二階

最後に

当時小さな船でしか本土と行き来出来なかった愛媛にも文化や技術の伝承が訪れ、当時の地元の大工さんや設計士が悩みながら建築をした証でもある章光堂、こういった愛媛の歴史の断片が今も残っているという事は大きな財産です。何より100年たった今でも皆さんに使っていただけるというのは建物としても素晴らしい事です。今後も学童の学びの場として、また心のよりどころとして生き続けてくれるものと思います。

※愛媛大学附属中学校の皆様には資料提供など大変お世話になりました。また、文章作成のために今回内部に入らせていただくことは自重いたしました。使用した内部の写真は2009年に文化財・まちづくり委員会で調査した時のものを使用しています。

※校内にありますので自由な見学はできません。

二級建築士設計製図試験対策 見学会報告

青年委員会 委員長 和田 崇

場 所：西予市野村保育所、大洲こども園

参加者：5名(士会スタッフ：7名)

8/6(土)、青年委員会主催で二級建築士設計製図試験受験者向けの保育所実例見学会を開催しました。

8月上旬は県内のコロナの感染者数もとても多い状況でしたが、西予支部の和氣さん、松山支部の白石学さんのご尽力で野村保育所、大洲こども園の2つの施設から見学許可をいただきました。施設の先生他職員のみならず、早く施設を見学させていただき本当にありがとうございました。

前任の青年委員長である松平さんの発案により2018年に始まったこの試験対策見学会。コロナによる中断やYouTubeによるオンライン配信のみの開催を経て、3年ぶりの対面開催となりました。

自分自身が受験生だった頃のことを振り返ると、図面を描きながら空間をイメージする力が不足していたように思います。受験生の方に実際の空間を体験してもらい、製図試験やその後の実務で、図面から空間をイメージする力を身につけるための経験となれば、という思いで企画したことが始まりです。

当日は35℃を超える猛暑日となりましたが、青年委員の皆さんには参加者の案内、駐車場の誘導係をお願いしました。また、花岡副会長もご参加下さり、青年委員会の活動の様子を暖かく見守っていただきました。

現地での講師を引き受けてくれたのは、松山支部の相原昌彦さんです。実際の建物を目の前に、熱い解説が続きました。コロナ禍での活動として始めた建築士試験解説のYouTube動画ですが、こちらは昨年度に続いて近藤岳志さんの力作です。自ら出演し、ポイントの解説とスライド作成・動画編集を一人でこなしてくれています。

お二人とも本当にありがとうございます！

今回は初めての試みとして、対面開催とYouTubeでの動画配信の2本立てとしています。当初の目論見としては、現地で講師をしてもらった相原さんの解説の様子を撮影し、編集したものをYouTubeに投稿……と考えていたのですが、台本なしで臨んだ現地見学会の様子を撮影しただけではなかなかそのまま使える素材とはならず……こちらは改善が必要な点です。

YouTube 愛媛県建築士会 検索

告知の方法や参加者への士会入会までのフォロー（囲い込み？）など課題は多いですが、個人的に士会活動の中でも、若い方やこれから建築士を目指す方に建築の魅力を伝えることに力を注ぎたいと考えており、今回のような勉強会やワークショップ、資格取得のサポートなどを継続して実施することが出来れば、と考えています。

参加者の方々が本試験で良い結果を残すことが出来、建築の世界でますます活躍されることを期待しています。花岡副会長、相原さん、近藤さん、青年委員会のみならず、本当にお疲れ様でした。



▲士会スタッフからの説明を熱心に聞く参加者

女性委員会主催 異業種勉強会 防災セミナーに参加して

女性委員会 委員 入船 安紀

日時：令和4年8月21日(日) 13:30~15:00
場所：松山防災センター(松山保健所・消防合同庁舎5階)

近年、地震災害や土砂災害・豪雨による浸水など、日本でも毎年のように災害被害が起っています。平成23年3月11日、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生し、多くの方々が命を奪われ、今も仮設暮らしを余儀なくされています。そして、平成26年、30年には西日本や北海道などで豪雨や土砂災害が起り、床上浸水したり流されたりする被害が出ました。平成28年には、マグニチュード6.5の熊本県地震が発生し、阿蘇地方を中心に熊本市内など多くの被害を受けました。大学4年間を熊本で過ごした私にとっては、テレビで熊本地震そして熊本城の甚大な被害を知った時には、強い衝撃を受けたことを覚えています。

自然災害は、いつ・どこで発生するか分かりません。自分達の身近でいつ起り得るか分からない災害に対して防災意識を高める為に、女性委員会主催の異業種勉強会と称して、防災セミナーを企画し、参加してきました。去年も企画しておりましたが、開催前に蔓延防止措置が発令され中止となりました。今年こそは、と、ちょうど1年後の今日、人数制限はありましたが無事開催することができました。夏休みということもあり家族連れやお子様の参加を募り、人数制限いっぱいの20名の方に参加していただきました。

皆さん興味津々で5階の防災センターへ向かいました。エレベーターを上がるとまず目に飛び込んできたのは、地震でがれきが崩れ、車のがれきに押しつぶされた状態を再現した模型でした。その前を通り過ぎると、奥には視聴できる空間があり、その周辺には色々な展示物や、防災グッズなどが置いてありました。

まず、ビデオ鑑賞を行いました。子供にも分かりやすいような内容で、近年の地震状況や地震分布図、どのように地震が起きるのかという発生メカニズムの説明、そして実際に被害に遭われた方のインタビューや怪我をした時の対処法を学びました。ビデオ鑑賞の後は、煙体験・消火体験・起震車試乗体験と続きます。煙体験では、実際に白い煙を発生させて、その中を誘導灯に従って迷路のような場所を歩いて避難する体験を行いました。その煙は無臭で安全なので視界が悪くても問題なく通過できましたが、これが実際の火事だと想像するとゾッとします。消火体験では、モニターに向かって水の入った消火器を使って2人1組でモニター内の火を消す体験を行いました。消火器は建築現場でも万が一の為に常に設置してありますが、いざ使用する(使用がないのが一番ですが)となると、どう扱っていいのかわからない方もいるのではないのでしょうか。①安全ピンを抜く②左手でホースの先を掴んで火の方に向ける③右手で上のレバーを強くにぎる、この方法で消火器を実際に使用し、使い方を学びました。ただ消火器を使用するだけでなく、実際に火

事が起こったら、まずは大声で『火事だー!!』と叫んで周囲に知らせることで、近隣や周囲の方に助けを求めることが一番大事な事だと教えていただきました。体験中、みんな羞恥心があり声もなかなか出ない中、ただ一人、参加していただいた花岡副会長が『火事だー!!』と大声で叫んで消火にあたっていた姿に感銘を受けました。

最後は起震車試乗体験です。グループに分かれ4人で順番に試乗しました。説明では徐々に震度が上がり、揺れだしたら机の下に入って下さい、と言われました。私の中では簡単に考えて乗り込みましたが、その考えは間違っていました。最大震度6まで体験しましたが、尋常ではない揺れの激しさにとっても驚きました。

1時間半の短い時間でしたが、濃厚な時を過ごす事ができました。この体験が今後の人生での教訓となり、防災を身近に感じる事ができました。皆さんも興味がある方がいらっしゃいましたら、簡単に申込みができますので、松山市防災センターに問い合わせ、是非体験されてみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、セミナーを講習いただきました消防職員の方々、そして今回セミナーに参加された皆様、女性委員会や建築士会のご協力いただいた皆様、おかげさまでこのような良いセミナーを開催でき、貴重な体験ができましたこと感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



▲消火体験風景

▼起震車の前で記念撮影



目指せ建築士！ 安全な橋をつくろう。

宇和島支部 青年部 青年部長 櫻井 一博

開催日：令和4年8月7日(日)

場 所：宇和島市学習交流センター
パフィオうわじま自由工房

参加者：中高生チーム12チーム(35名) 支部：11名

これまで私たちは、建築士の日の事業、「夢のまち 素敵なまち絵画展」を開催してきました。しかし、昨今の状況から、学校も休校などが増え、絵画展に出品する製作時間が取れないなど数年実施出来ない状況でした。そこで、今回は違うテーマで、やったことのない事業を行おうと、メンバーみんなで話し合い、「目指せ建築士！安全な橋をつくろう。」の開催を決定しました。やったことのない事業なので、どうすれば良いかメンバーと協議をし、実際に試作を行ったり、資材の選定、準備など、何とか当日を迎えることが出来ました。



豪華賞品を目指して、みんな真剣に作成していました。ここで考えながらではなく、みんな事前に試作をしているようで、「始め」の合図とともにくもくと！！



そんな中、「何か楽しいこととしてそうだね」と見学に来ていただきました、隈研吾さん！！ビックリしました。宇和島市長、岡原文彰さんも来場されました。



各チーム色々な発想で作成した橋に、重りを載せていって、何個載ったかで競います。美しさなどの評価も総合して順位を決定しました。みんなの真剣な表情を見ているので、評価を付けるのが難しいこと。



何とか無事に表彰式も終わることが出来ました。子どもたちの笑顔が素敵でした。



この「目指せ建築士！安全な橋をつくろう。」を通じて、宇和島圏域の生徒達に建築・構造計画の楽しさを知ってもらい、将来の建築業務従事者を増やしたい、建築構造に関わる基礎知識を広めることで建築士業務の重要性を伝えるとともに、建築工事に対する理解を深めてもらいたいという思いが、少しでも伝えられていたらうれしいなあ。メンバー、ありがとうございました。

田中羊子に出会って

賛助会員 (株)栗田工務店 谷本 憲介

部下の西山ゆかからバトンを受け取りました賛助会員の(株)栗田工務店・谷本憲介と申します。建築士ではない私が寄稿させていただくことに恐縮しております。私は平成7年、22歳の時、土木工学科を卒業、地元の土木系建設コンサルタントに就職し、道路・河川・法面などの測量設計調査に携わりました。道路拡幅の協議過程などで色々な方とお会いできるのは楽しかったですが、ある山道の拡幅計画で地元の方とお話したときに、ご高齢単身女性が「この柱の傷は、死んだお父さんが付けた傷なんよ。この家は離れたくないんやけど、どうしても退かんといかんのやろか?」という言葉聞いた時でした。それから、本当に土地や家を売りたい人に関わってみたい、と思い平成15年・29歳で宅地建物取引士を取得し、不動産会社へ転職しました。主に不動産売買仲介の担当として36歳まで業務をしていましたが、その会社が会社更生法を申請することになりました。それをきっかけに3社目の会社となる栗田工務店のグループ会社(株)みのり商会へ転職することになります。経験のある不動産仲介をするつもりでしたが、栗田工務店への転籍を命じられ、建築業界へとお邪魔することになったのです。

そして、当時、61歳の取締役専務「田中羊子」と出会ってしまいました。転籍・出社の初日のことは、今でも忘れられません。まず、自己紹介をすると返ってきた言葉は「あんた、何するんで? やることあるん?」とのこと。未経験ですが頑張ります、というようなことを言ったと思いますが、夕方、「何かお手伝いしましょうか?」と聞くと「あんたに出来ることは無い」というのです。少しイラッとして、お茶を入れて差し出し、心の中では「出来ることはある!」という意味を込めて出したつもりですが、心のもった「ありがとう」と言うのです。恐らく私のそういう想いは伝わっていなかったのでしょうか。この人は???と心から思ったことをハッキリ覚えています。

そもそも、入社前に「あの人は愛媛県で最初に女性で一級建築士を取った人で、構造系が得意」と聞かされていたので、ボサボサの髪の毛と、よれよれのシャツにタオルを首に巻いている姿を見た時は、私のイメージとはあまりに異なり、別人かと思っていたましたが、本人だと知り驚きました。それから、一緒に机を並べて仕事をし、現場に行き、お客様宅に打ち合わせに行くようになりました。どこに行っても、田中羊子の代名詞「北条弁」がさく裂し「いかまいげ!」「嘘じゃろげ! どうするんで!」などという言葉が出てきます。

もはや、ビジネスマナーもへったくりもありません。思ったことがそのまま口から出てくるのです。ただ、一

緒に過ごして感じていたことは、この人は「建築の仕事」と「人(人間)」が心から好きなんだ、ということ。現場でも困ったなあ〜と言いながら、よく顔をみると口元がニヤニヤしているのです。これまでの経験からか、何とか出来るという自信があるのか、その過程を考え完工させることを楽しんでいるように感じます。そして、お客様への想い・協力業者さんへの想いは、私の言葉では表せないくらいの熱い想いがあるのです。それは、私が過去の会社で経験してきたことや研修で学んだことの、顧客満足とか人を思いやる気持ちなどではなく、本当に自己犠牲を厭わない考え方で行動をするのです。

これには私の仕事観を大きく変えられました。私の想いは、田中に比べると天と地の差くらいレベルの違いを感じ、過去の仕事を思い返すと赤面することになります。田中と同行していると、お客様や協力業者さんも、最初は私が受けた第一印象のように、何なんだ?この人は?と感じているのが良く分かるのですが、時間を共有していくと「田中さんの言う通りにお任せします」「田中さんが言うから無理して作業するよ」となっていくのです。お客様も職人さんも人間です。田中の想いを感じてくれるのです。創業50年になりますが、栗田や田中が築いてきた社風・文化を継承していきたいと思えます。

田中は現在73歳で、一度70歳の時に退職をしたのですが、半年後くらいに「ボケてしまうけん」とアルバイトとして復帰、今では社員以上に出社し、現場をこなし、最大限のお客様満足に役立ててくれています。

時々思い出すことがあります。新卒で入社した建設コンサルタントの業務で出会った、「この柱の傷は、死んだお父さんが……」と言われたご高齢女性に、今、お会いできたなら、田中と一緒に訪問し「おばあちゃん、おじいちゃんの思い出と一緒に移転できるように頑張るから」と言えるのに、と。次のバトンは副会長・花岡直樹さんへ繋ぎます。よろしく願い申し上げます。



▲田中羊子さん(右)と筆者

建築と災害(記憶の大切さ)

宇和島支部 兵頭 友義

宇和島支部の兵頭友義です。宇和島で活躍されている池田さんよりつないで頂きました「けんちくの輪」、今回は私が担当させていただきます。

今回この原稿依頼を受けた時、何についてお話しようか考えました。

私は15年ほど前から建築設計業務のほかに、自然災害の調査業務をさせて頂いておりますが、先日福島県沖で震度6強の地震が発生し地震保険の査定業務で福島に行っていたこともあり、11年前の2011年3月11日に発生した東日本大震災のことで、私たちが住むこの地域で大地震がおこる確率が上がっていることが重なったことから「建築と災害」についてお話させていただきます。

皆さんはまだ東日本大震災の記憶が残っていらっしゃいますか？

地震だけでなく太平洋沿岸を襲った大津波が多くの命を奪っていきました。死者、行方不明、関連死は計2万2千人におよびます。それに追い打ちをかけたのが世界ではチェルノブイリ原発事故にも匹敵すると言われていた福島第一原発のメルトダウンです。いまだに汚染水問題や帰還困難区域の問題があります。町が無くなり、生活が出来なくなっています。

私たちの生活圏である東海・南海地域の地震では大地震だけでなく大津波も発生します。政府の被害予測では東日本大震災を大幅に上回り、東海から九州にかけて生じる強い揺れで約17万棟の建物に影響が生じ、液状化により約8万棟、津波により約4万棟、火災で約1万棟～4万棟、がけ崩れで約2万棟、合計33万棟～約35万棟の被害が出る予想です。

人命を守るために私たち建築士は建物の耐震化を進めておりますが、想定外の被害がおこる可能性は大きいと思います。そのために私が出来ることは地道な建物の耐震化・防災化と、大地震が必ず発生するという事実を多くの人に知ってもらうこと。少しでも多くの人に記憶を残し、準備をしてもらうことだと思っております。皆さんにも防災の意識を持っていただき、一人でも多くの人に伝えていただきたいと思っております。

私は東日本大震災の折、釜石、大船渡、陸前高田の被災地に立ち被害状況を見てきました。その現状は言葉を失うほどの被害でした。また、小中学生のPTA東北震災研修事業を3年間実施しました。そこで「釜石の奇跡」と言われる事象（子供たち主導で懐疑的な大人達をも動

かして避難し、一人の犠牲者も出さなかったというもの）や「津波でんでんこ」（津波の時、自分の命は自分で守るという言い伝えで、自己中心的な考えでなく自分の責任で自分の命を守るという考え）を聞き、宇和島の子どもたちにもそうなってほしいと思ったのです。

この経験をした子どもたちが防災リーダーとなり、被災時に人々を動かしてしてくれることを確信しております。宇和島市のPTAでは今でも防災教育を進めており、防災の輪が広がっていることは嬉しいことです。

皆さんにはもっと災害の時にどのような行動をとるか？ 家族の安否情報・連絡方法はどのようにするのか？ 等を今一度話し合ってもらいたいのです。

また、防災グッズとして何をどれだけ備えなければならぬのか？ もっともっと話して下さい。

とりとめのないお話をしてしまいましたが、建築の輪とともに防災の輪も広げて頂ければ幸いです。

私のお話は終わりますが、次にまた「けんちくの輪」をつなぎますのでお楽しみにして下さい。ありがとうございました。



あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和5年 1月号 (150号) 令和4年11月24日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々まで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛
FAX 089-948-0061

編集後記

公益社団法人愛媛県建築士会は、今年70周年。

尾藤会長からは、「いしづち」70周年記念号を発刊したらどうかとご意見を頂いています。広報委員会でも話し合いを行い、愛媛県建築士会の歴史をメインにしたらどうかという意見が上がってきており、今から素敵な記念号になるように検討をして行こうと考えています。その他に記念号に上げて欲しい記事がありましたら、事務局にご連絡頂けたらと思います。

また、10月上旬に西予市に於いて、尾藤会長、松山副会長、下元女性委員長、情報広報委員長及び情報委員2名で、今後の愛媛県建築士会について話し合う場を設けて頂きました。理事会では話すことがない熱い思いを伝えることができ、活動の情報発信、士会の魅力アップ、会員増強について語り合うことが出来ました。今後もこのような会を他の地域で出来れば良いと思いました。会長及び副会長宜しくお願いします。

〈いしづち〉2022/11

令和4年11月発行

発行人 会長 尾藤 淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉 花岡 晶子